

2026.6

長期ラボ2025[※]参加企業を対象とした 老後資産形成に関する従業員アンケート結果の分析

アセットマネジメントOne

未来をはぐくむ研究所

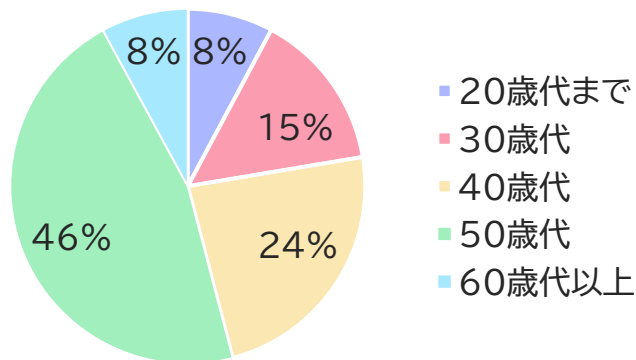
※長期ラボ2025:「資産形成を社会実装するための長期研究チーム(第2期)」(座長 幸田博人 京都大学経営管理大学院特別教授)

- ◆ 老後資産形成に関する従業員アンケート(以下、本アンケート)は、「資産形成を社会実装するための長期研究チーム(第2期)」(座長 幸田博人 京都大学経営管理大学院特別教授) (以下、長期ラボ2025)にて実施されたものです。アセットマネジメントOne未来をはぐくむ研究所は第1期から研究チームに参画しており、今般、事業法人の一社としてアンケートに協力しました。
- ◆ 本アンケートの対象者は、長期ラボ2025に参加した委員のうち、5名の委員が所属する事業法人5社(次ページ参照)の従業員です。当該5社は従業員向けの金融経済教育などに積極的に取り組んでおり、本アンケートでは、会社の取り組みと従業員の意識や行動との関連性について分析を行っています。
- ◆ また、長期ラボ2025では、ティー・ロウ・プライス・グループが実施した5カ国(日、米、英、豪、加)に対する「2025年老後資産形成に対するグローバル意識調査」を分析しました。これを踏まえ、本アンケートでは、グローバル調査との比較が可能となる設問を組み込むことで、日本の特徴を相対的に把握できる設計としています。

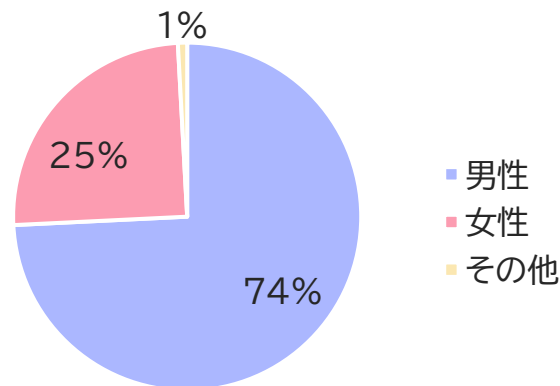
本アンケートの背景や位置づけについては、資産形成を社会実装するための長期研究チーム(第2期)研究報告書「老後資産形成に対する5カ国調査を踏まえた日本の課題および「長期ラボ2025参加企業の従業員に対するアンケート調査」による示唆」(<https://www.nensoken.or.jp/wp-content/uploads/R08-02.pdf>)もあわせてご参照ください。

目的	会社の取り組みが従業員の意識や行動に対して与える影響・効果を検証する
対象者	長期ラボ2025に参加した委員のうち、5名の委員が所属する事業法人5社(※)の従業員(※)アズビル株式会社、キューピー株式会社、日本電気株式会社、ヤマト運輸株式会社<五十音順>、およびアセットマネジメントOne株式会社
手法	各社の社内アンケート調査
回答数	7,361名
実施時期	2025年12月～2026年2月
質問事項	企業型確定拠出年金(企業型DC)や老後に向けた資産形成に関する内容について、全15問

●年代



●性別



公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構(東京都港区、理事長高山憲之)により、2024年3月に金融関係者や有識者を中心に構成され、発足しました。2025年6月からは第2期(長期ラボ2025)として、日本における職域での資産形成支援・金融経済教育、ならびにリタイアメントプランニング高度化に向けた示唆を提示することを目的に、調査・研究を継続しています。

※ プレスリリースは[こちら](#)

※ 役職は第2期開始(2025年6月)時点のもの

【長期ラボ2025 メンバー】

(座長) 京都大学経営管理大学院特別教授 幸田 博人

(委員) アセットマネジメントOne 未来をはぐくむ研究所長 伊藤 雅子

名古屋学院大学経済学部教授 上山 仁恵

第一生命保険株式会社 DC・投資信託推進部長 大利 一郎

NPO法人確定拠出年金教育協会 主任研究員 絹川 竜男

ヤマト運輸株式会社 働きやすい職場作り推進部社員福祉センターマネージャー 楠神 健史

明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科専任教授 沼田 優子

キューピー株式会社 人事本部労務部 野口 恵子

ゆうちょ財団研究部主任研究員 宮下 恵子

県立広島大学地域創生学部教授 村上 恵子

パパラカ研究所代表取締役 山根 承子

ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社 リレーションシップマネージャー 横川 雄祐

NEC企業年金基金 企画グループマネージャー 横田 恵一

アズビル株式会社 グループ経営管理本部グループ財務部長 吉原 卓志

(事務局・運営協力)

年金シニアプラン総合研究機構

ティー・ロウ・プライス・ジャパン

アセットマネジメントOne 未来をはぐくむ研究所

1. 従業員の意識・行動の全体像

会社の金融経済教育などの真摯な取り組みは、従業員の資産形成を着実に支えている

- 会社が金融経済教育などに真摯に取り組むと、従業員はその取り組みを評価し、会社の研修・セミナー、提供する情報を頼りにする(p.8,9)
- 投資に対する抵抗は相対的に低く、会社の継続投資教育や商品の入れ替えが投資に前向きになる行動変容のきっかけとなっている(p.12~15)

その一方で、老後に対する期待、自信、老後資金準備の進捗は日本全体の傾向と大きく変わらない

- 日々の支出の管理などの現在のお金のストレスは5カ国調査と比較して低くなっているが、それが老後に対する自信や老後資金準備の進捗に必ずしも結びついていない(p.16~18)
- 「企業型DCが十分かわからない」と感じている層が一定程度存在する(p.19)

「わからないや不安を、自分ごと化・見える化して、前向きな目標にする」ための支援が必要

- 自分ごと化 : ライフプランニングとキャリアプランニング
- 見える化 : ゴール設定や年代別のモデルプラン

2. 老後に対する自信・準備状況の違いにみる従業員の特徴(属性別傾向)

老後に対する自信がある人・老後資金の準備が進捗している人

- 会社の取り組みを高く評価している(p.21)
- 投資信託を保有している(p.26)

老後に対する自信が低い人・老後資金の準備が進捗していない人

- 女性の割合が相対的に高い(p.22)
- 投資信託を保有していない、または、保有状況が不明な割合が高い(p.26)

※ 女性：特定の個社の課題ではなく、5カ国比較においても共通して確認される傾向
投資信託非保有・不明層：当該5社では保有比率が高く、相対的には限定的な課題

アクセスしやすい個別アドバイス、セグメントやニーズに合わせたセミナーなどが必要

本アンケートから見える手がかり

- 女性は、会社や友人など「顔の見える相手」をより頼りにする傾向があり、会社による教育支援を求める声が多い(p.24)
- 投資信託非保有・不明層は、職域の研修・セミナーに加えて、個別アドバイスを求める割合が高い(p.29)

※本結果は属性間の比較に基づくものであり、直接因果関係を示すものではない

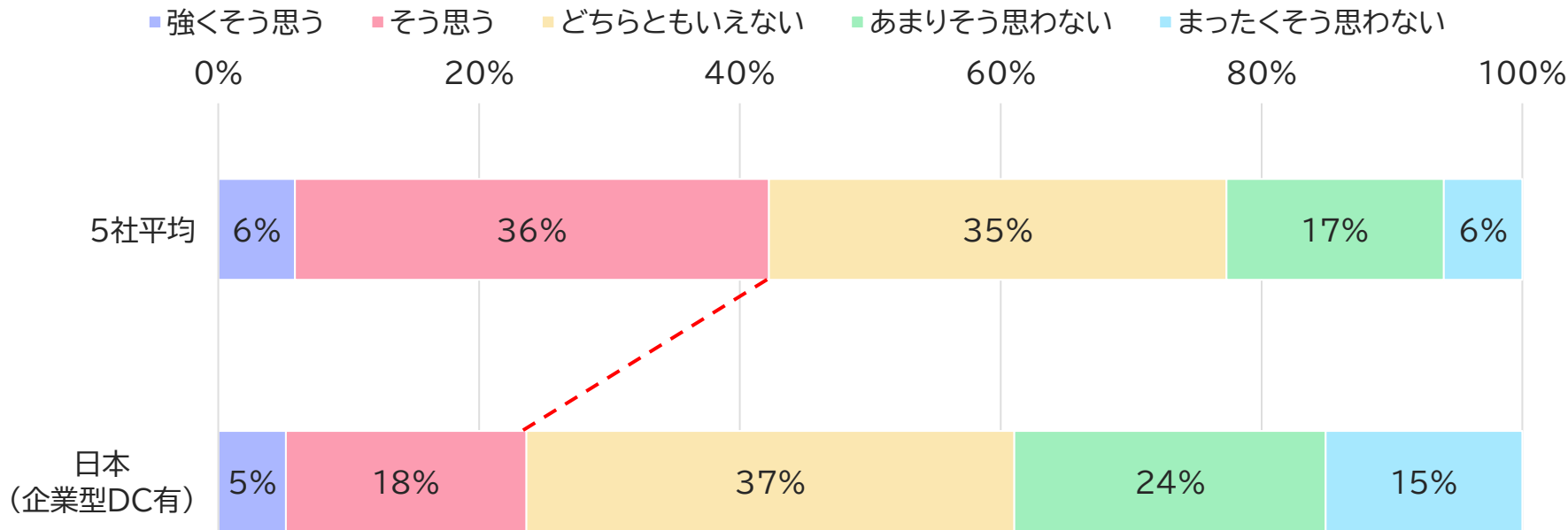
巻末の注意事項を必ずお読みください。

1. 従業員の意識・行動の全体像

- 分析は原則として5社単純平均を用い、社業特性等により回答に偏りのあった設問はその会社を除いた平均を採用している
- 以降のグラフについて：
断りのない限り、原則として「老後資産形成に関する従業員アンケート」の結果
5カ国の出所は、ティー・ロウ・プライス・グループ [2025年 退職貯蓄に対するグローバル意識調査](#)
(調査対象：世界合計 7,010人(内訳：豪州 1,000人、カナダ 1,000人、日本 1,006人、英国 1,003人、米国 3,001人))

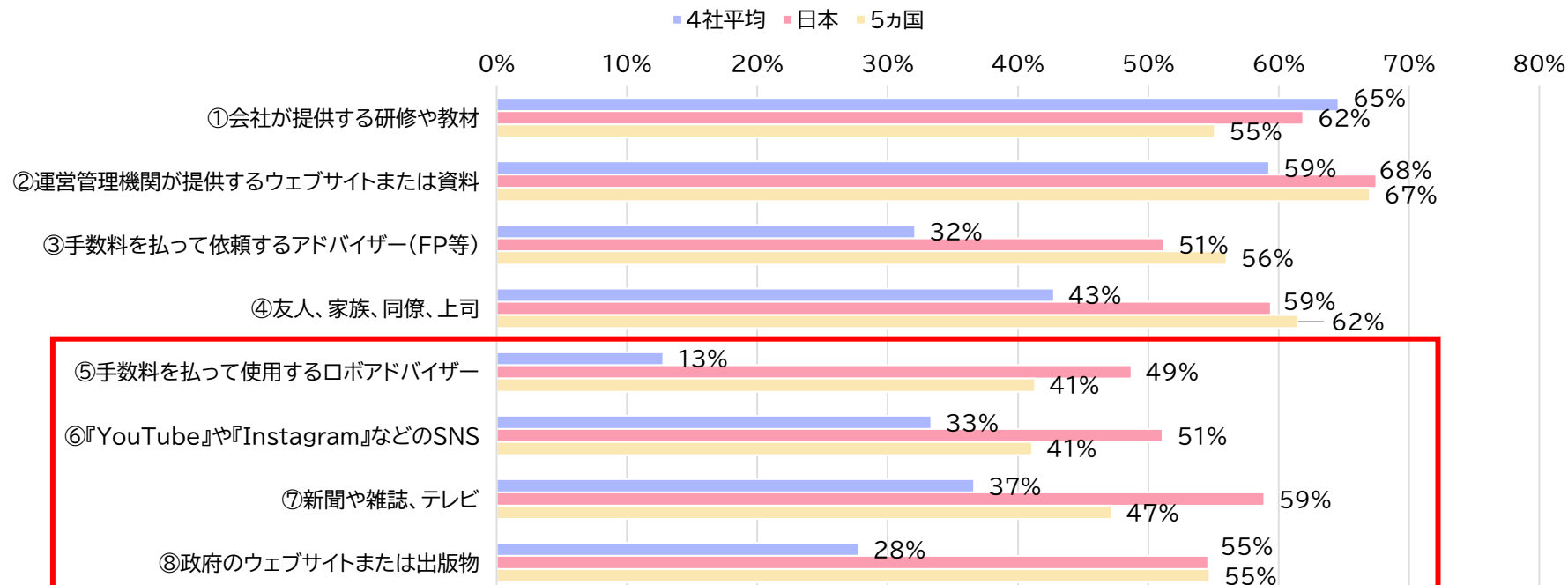
- 肯定回答が多く、会社の取り組みが高く評価されていることが伺える

あなたの会社は福利厚生として金融経済教育に熱心に取り組んでいますか。



- 日本や5カ国と比較すると、自分で探した情報を頼りにしている割合が少ない

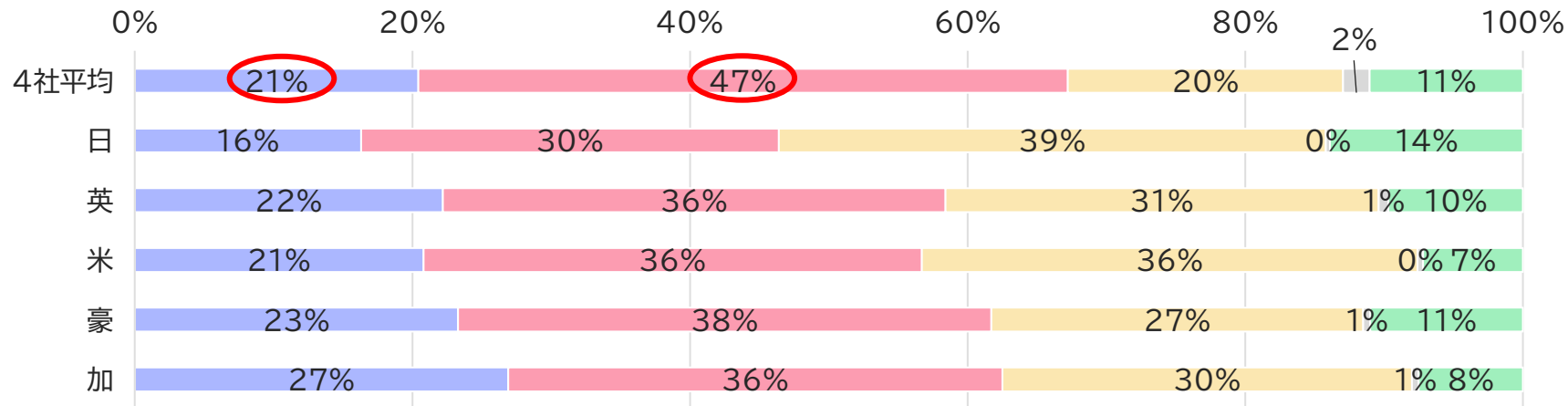
資産形成に関するアドバイスやサポートに関して、あなたは以下の各情報源をどの程度頼りにしていますか。〈とても頼りにしている+ある程度頼りにしている割合〉



- 「デフォルト投資を希望する」割合は、英国・米国並み。教育支援を求める割合も高く、会社に対する期待が伺える

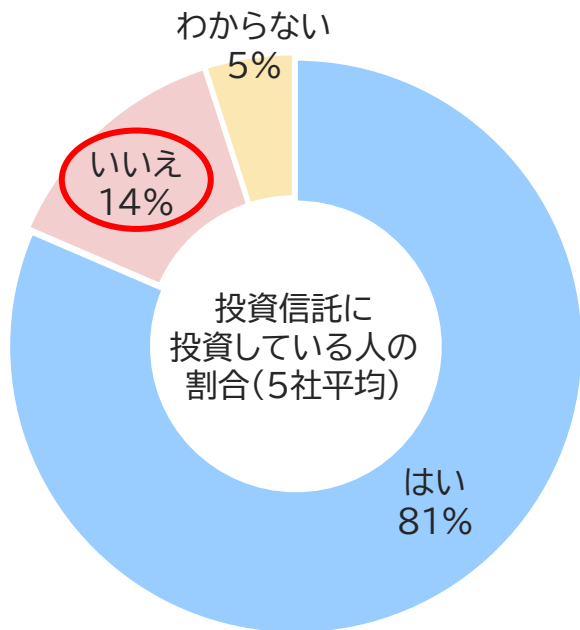
企業型DCによる老後資金のための投資について、あなたが好むアプローチを最もよく表している記述を選択してください。

- 投資先を自分で選択せず、自動的に分散投資ポートフォリオ(デフォルト投資)に組み入れられることを希望する
- 投資方法を選択したいが、そのための教育支援が必要である
- 投資先を自分で選択し、その能力に自信がある(※1社のみ、自信を持って投資先を自分で選択したい)
- その他
- わからない



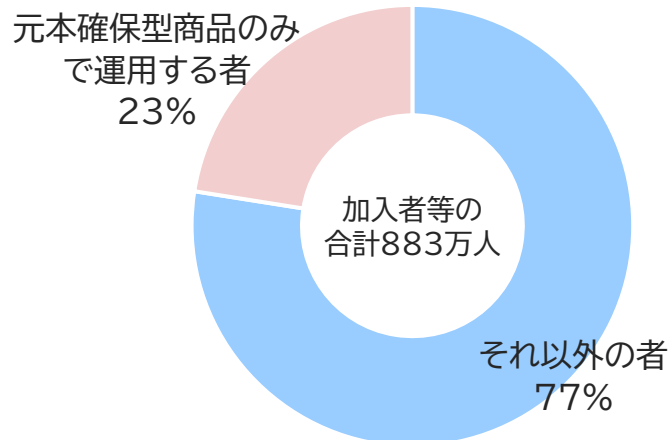
- 元本確保型のみで運用している割合は、全加入者平均と比べて低いと言える

あなたは企業型DCにおいて、投資信託(預金・保険など元本確保型商品以外の商品)に投資していますか。



参考

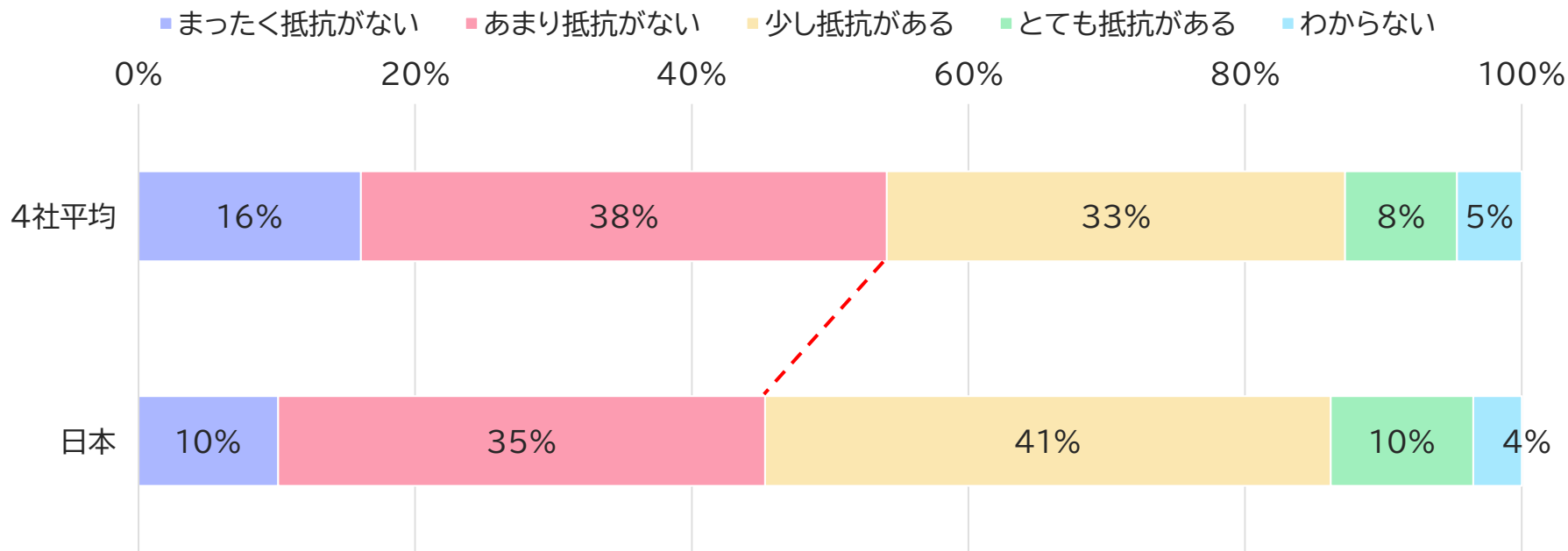
「元本確保型商品のみで運用する者」の全体に占める割合(24年9月末)



出所: 金融庁 [資産運用サービスの高度化に向けたプログレスレポート2025](#)

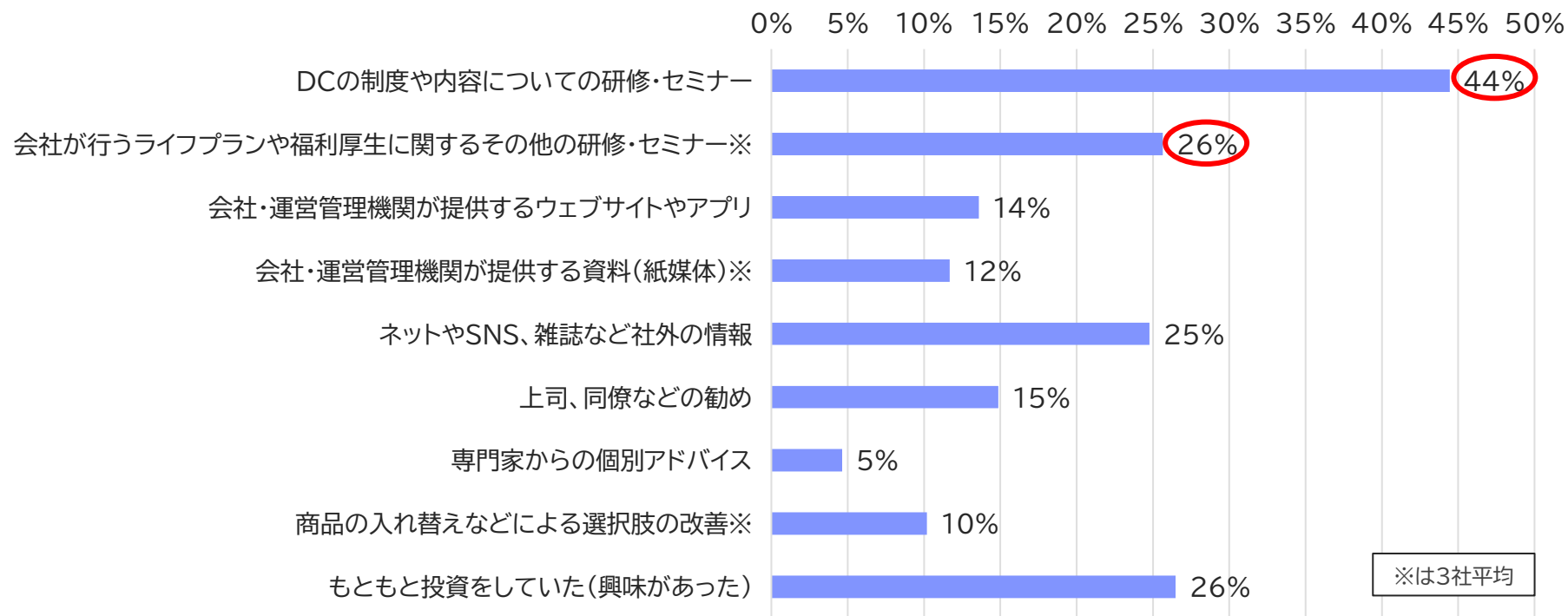
- 投資への抵抗感は日本よりも少ない

企業型DCにおいて、投資リターンを高めるために投資リスクをとることについて、どの程度抵抗がありますか。企業型DCによる投資の運用成績は老後の資産に影響することを考慮してお答えください。



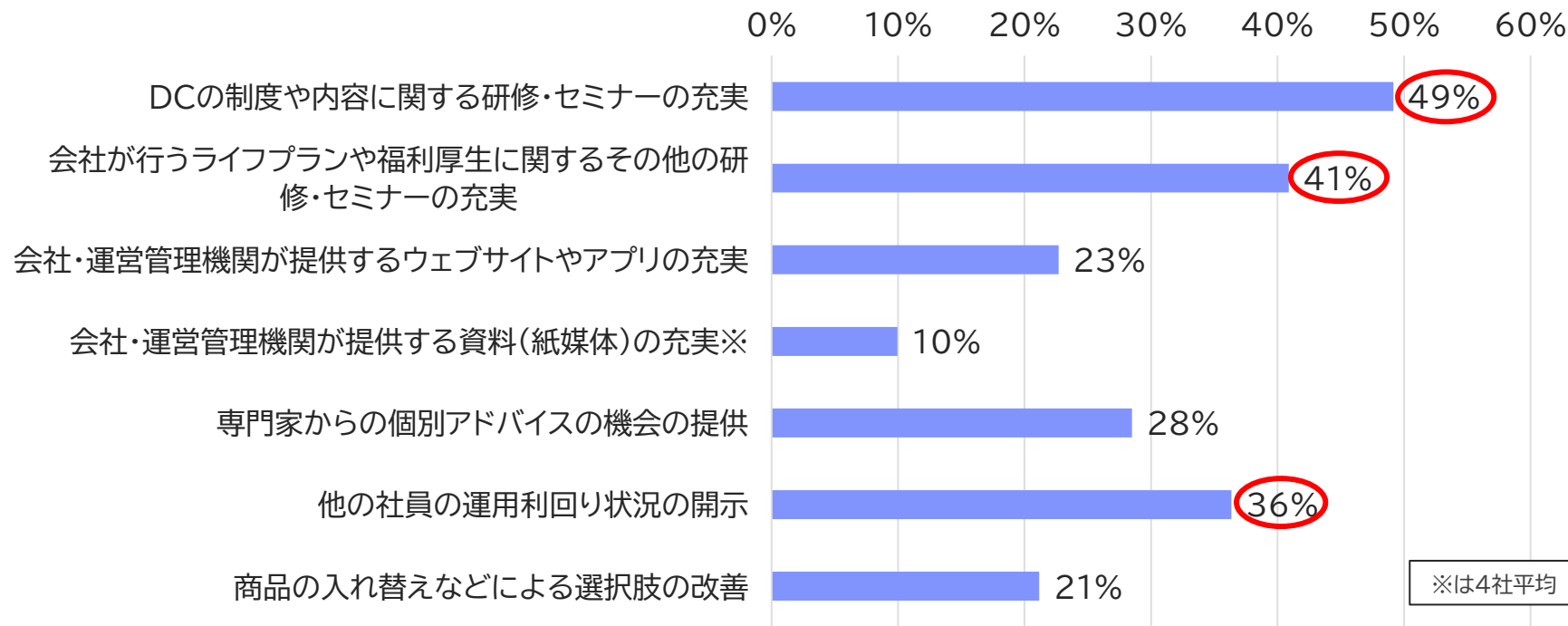
- 各種研修・セミナーを挙げる割合が高い

あなたが企業型DCにおいて投資信託を選択するきっかけになったことを教えてください。(いくつでも)



- 各種研修・セミナーの充実、他の社員の運用利回り状況の開示を求める声が多い

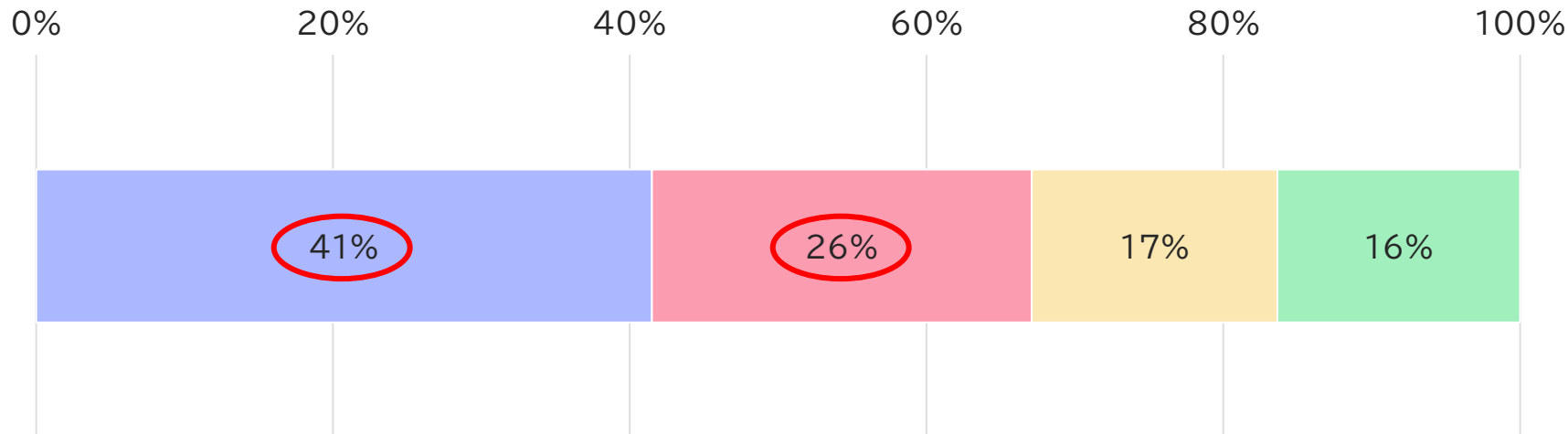
どのようなきっかけがあればDC制度や投資への関心を高めることができますか。(いくつでも)



- 各社で違いはあるが、DCの資産運用を見直すきっかけになった人が約7割

企業型DCの運用商品の入れ替えは、あなたが投資する商品を見直すきっかけになりましたか。

- DCの資産運用を見直すきっかけになり、投資商品を入れ替えた
- DCの資産運用を見直すきっかけになったが、投資商品の変更はしなかった
- DCの資産運用を見直すきっかけになっていない
- 運用商品の入れ替えを知らなかった(関心がなかった)



- 収支管理のストレスは5カ国と比較しても最も低い
- DCの投資管理のストレスは英国・米国と日本の間

あなたのお金の管理にかかわるストレスのレベルはどの程度ですか。

日々の支出を管理して、
予算をたてること

■ 高い ■ 中程度 ■ 低い ■ 感じていない

0% 50% 100%

DC制度などを通じて
老後資金の準備をすること

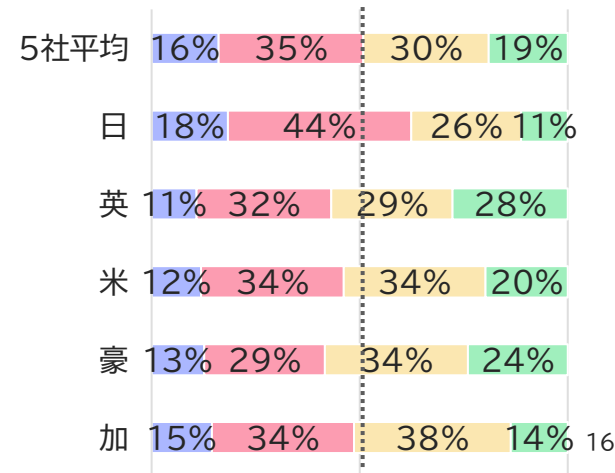
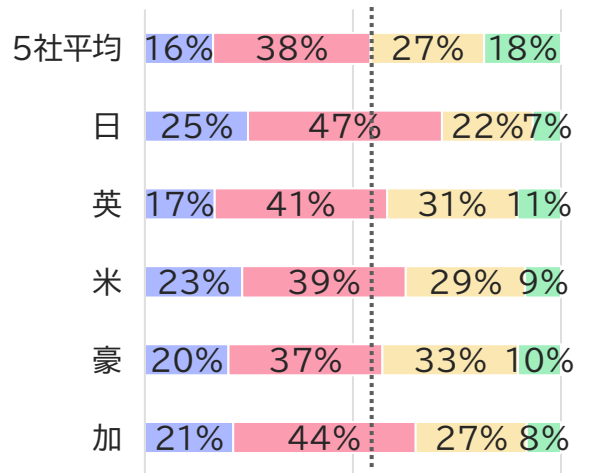
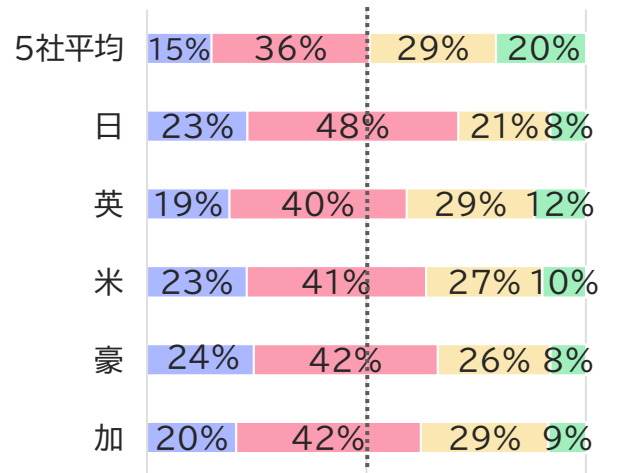
■ 高い ■ 中程度 ■ 低い ■ 感じていない

0% 50% 100%

DCの資産配分など
投資の管理を行うこと

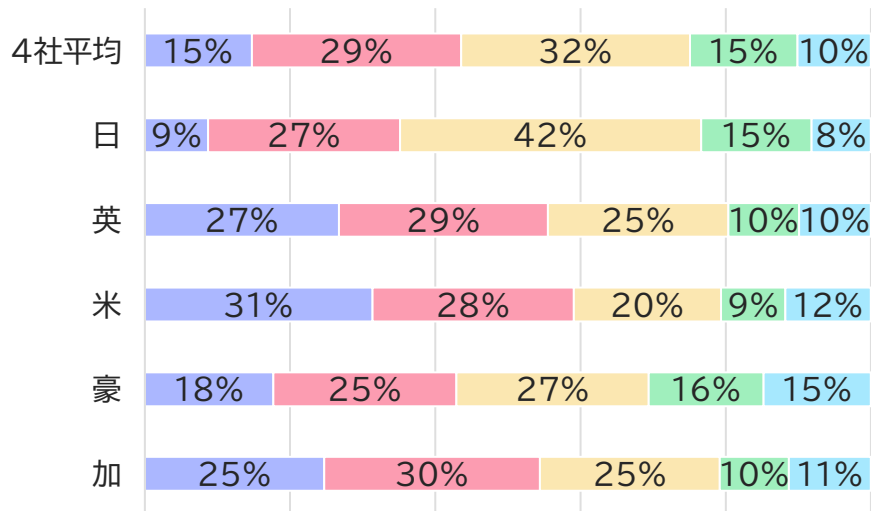
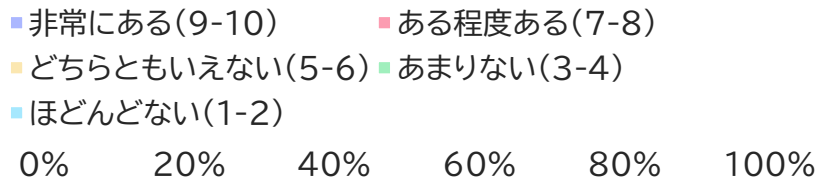
■ 高い ■ 中程度 ■ 低い ■ 感じていない

0% 50% 100%

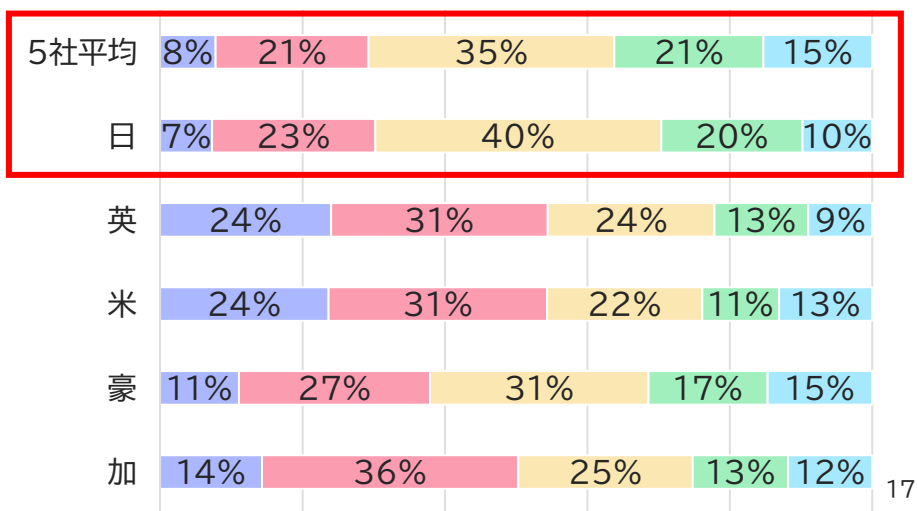
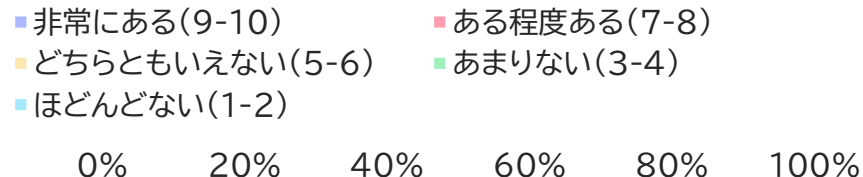


- ポジティブ回答の割合を見ると、自信は日本と同程度である

老後の生活についてどの程度期待していますか。
(10(非常にある)~1(全くない)の10段階評価)

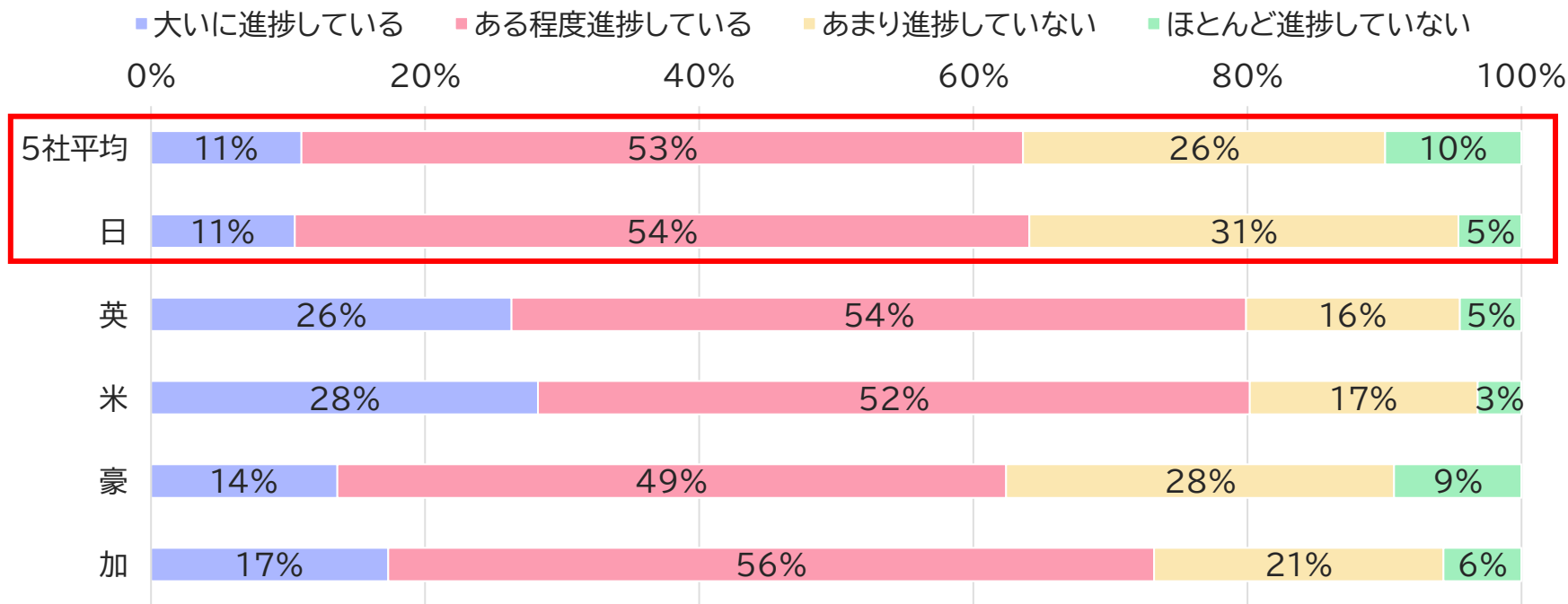


老後の生活についてどの程度自信がありますか。
(10(非常にある)~1(全くない)の10段階評価)



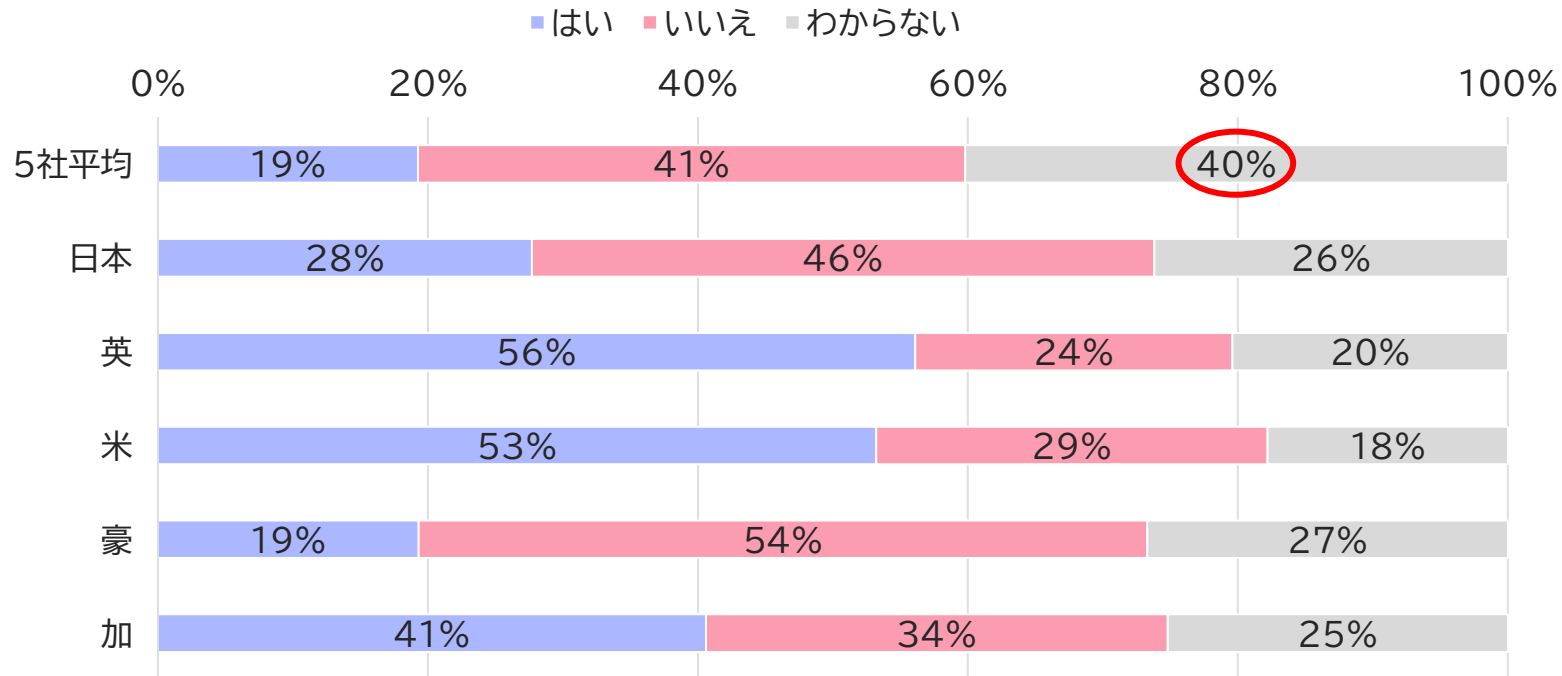
- 老後資金準備の進捗は日本の状況と変わらない

自分や家族が加入している企業型DCやその他退職金制度を通じて、老後資金の準備はどの程度進捗していますか。



- 5カ国と比較して、「わからない」が多い

老後の生活を快適に送るために、あなたの企業型DCは十分な水準を満たしていると思いますか。



2. 老後に対する自信・準備状況の違いにみる 従業員の特徴(属性別傾向)

- 分析は人数ベースを採用している

- 以降のグラフについて:

断りのない限り、原則として「老後資産形成に関する従業員アンケート」の結果

5カ国の出所は、ティー・ロウ・プライス・グループ [2025年 退職貯蓄に対するグローバル意識調査](#)

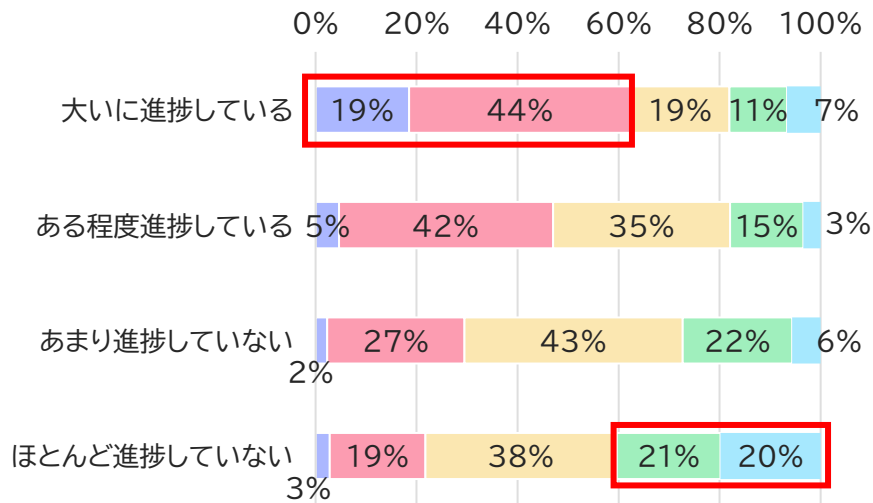
(調査対象: 世界合計 7,010人(内訳: 豪州 1,000人、カナダ 1,000人、日本 1,006人、英国 1,003人、米国 3,001人))

- 老後資金の準備が進捗している人は、会社の金融経済教育の取り組みを評価している傾向がある

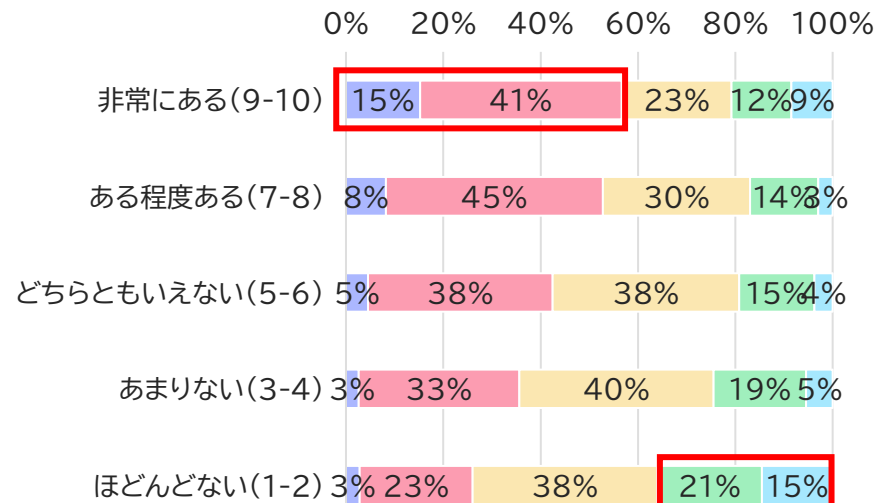
あなたの会社は福利厚生として金融経済教育に熱心に取り組んでいますか。

■ 強くそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない

老後資金準備の進捗別



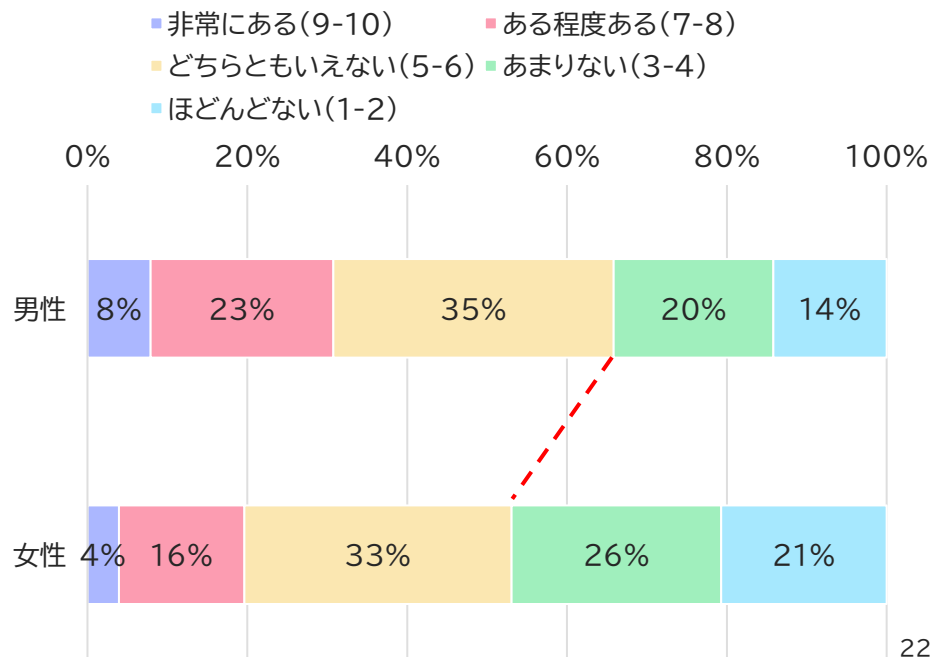
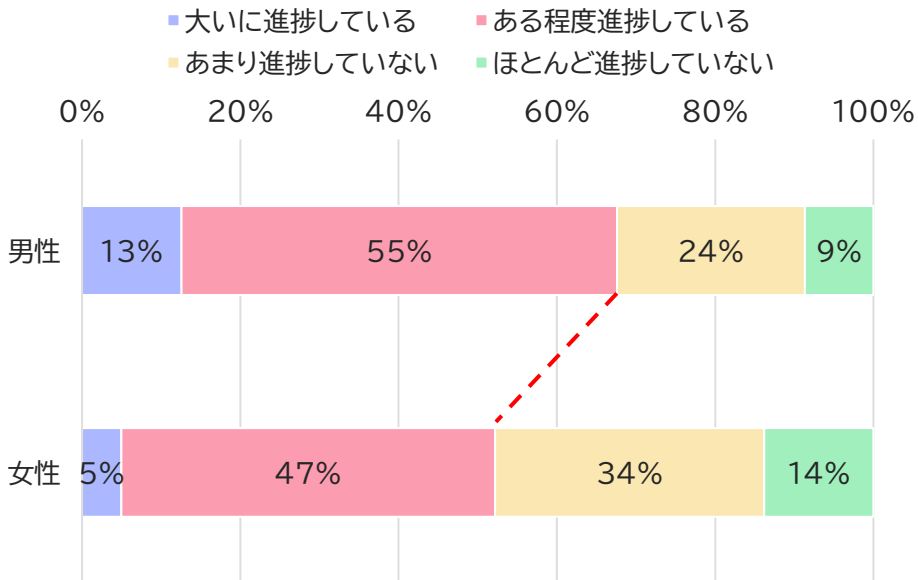
老後に対する自信別(10(非常にある)~1(全くない)の10段階評価)



- 女性の方が老後資金準備が進捗しておらず、自信も低い傾向

自分や家族が加入している企業型DCや
その他退職金制度を通じて、老後資金の準備は
どの程度進捗していますか。

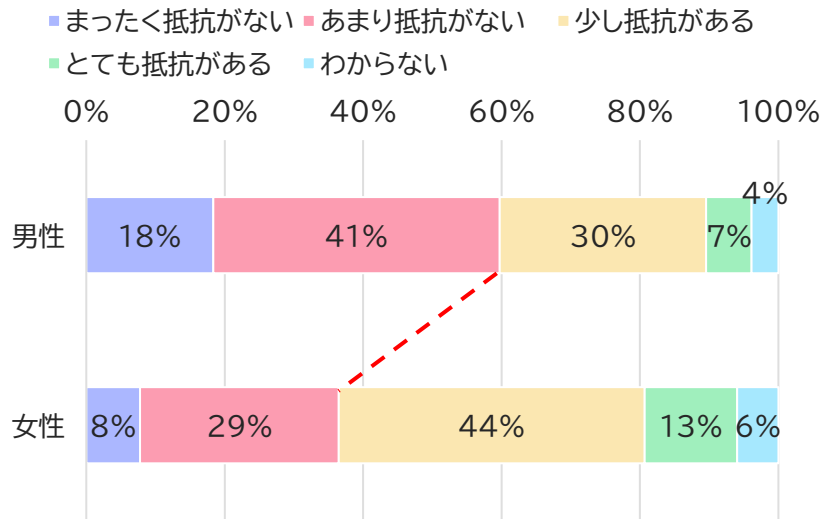
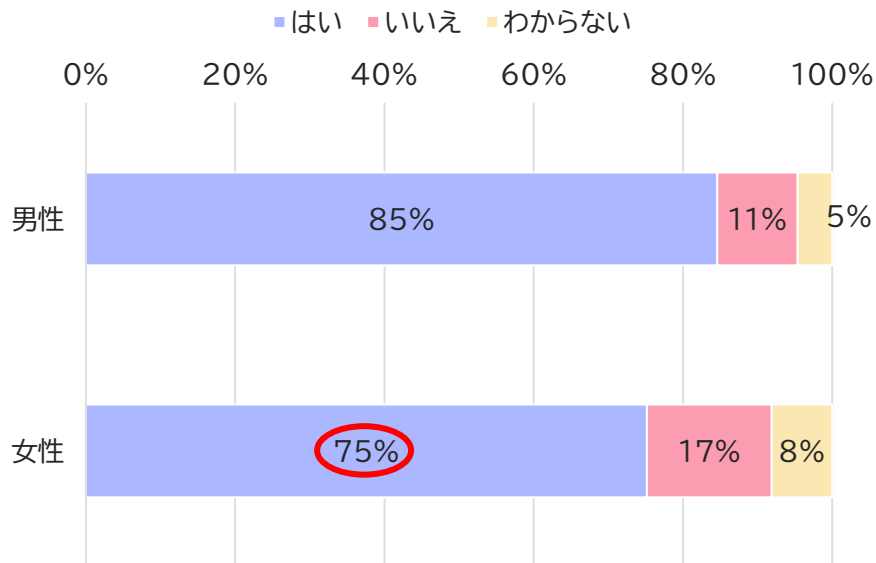
老後の生活についてどの程度自信がありますか。
(10(非常にある)~1(全くない)の10段階評価)



- 女性の方が投資信託非保有の割合が高く、投資に対して抵抗感を抱えている傾向が強い

あなたは企業型DCにおいて、投資信託(預金・保険など元本確保型商品以外の商品)に投資していますか。

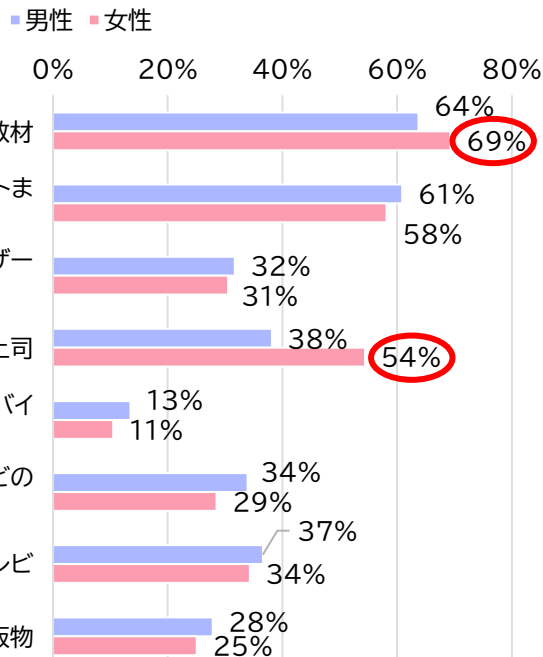
企業型DCにおいて、投資リターンを高めるために投資リスクをとることについて、どの程度抵抗がありますか。企業型DCによる投資の運用成績は老後の資産に影響することを考慮してお答えください。



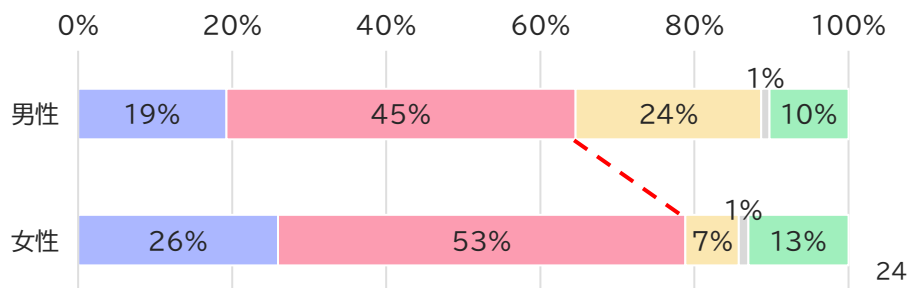
- 女性の方が会社や友人など、顔の見える対象を頼りにする傾向が強い

資産形成に関するアドバイスやサポートに関して、あなたは以下の各情報源をどの程度頼りにしていますか。
<とても頼りにしている+ある程度頼りにしている割合>

企業型DCによる老後資金のための投資について、あなたが好むアプローチを最もよく表している記述を選択してください。

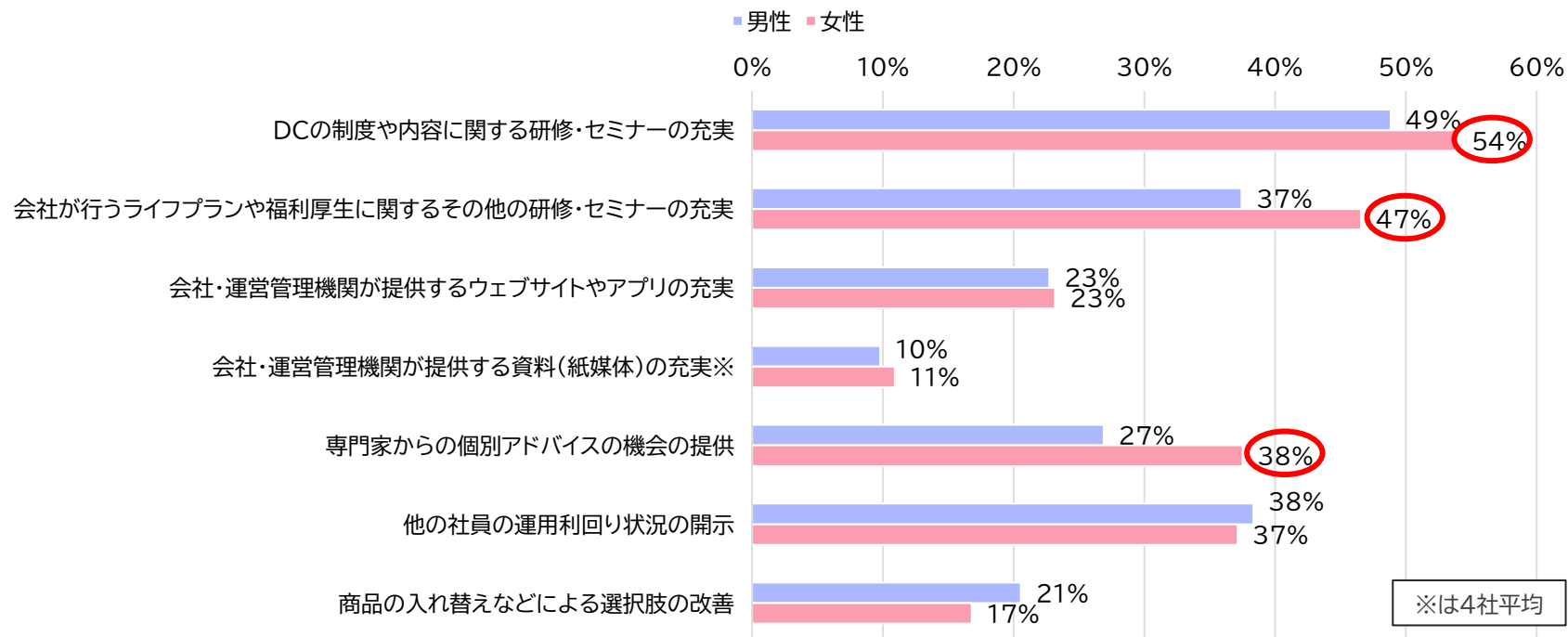


- 投資先を自分で選択せず、自動的に分散投資ポートフォリオ(デフォルト投資)に組み入れられることを希望する
- 投資方法を選択したいが、そのための教育支援が必要である
- 投資先を自分で選択し、その能力に自信がある (※1社のみ自信を持って投資先を自分で選択したい)
- その他
- わからない



- 女性の方が職域のセミナーや個別アドバイスを重視する傾向がある

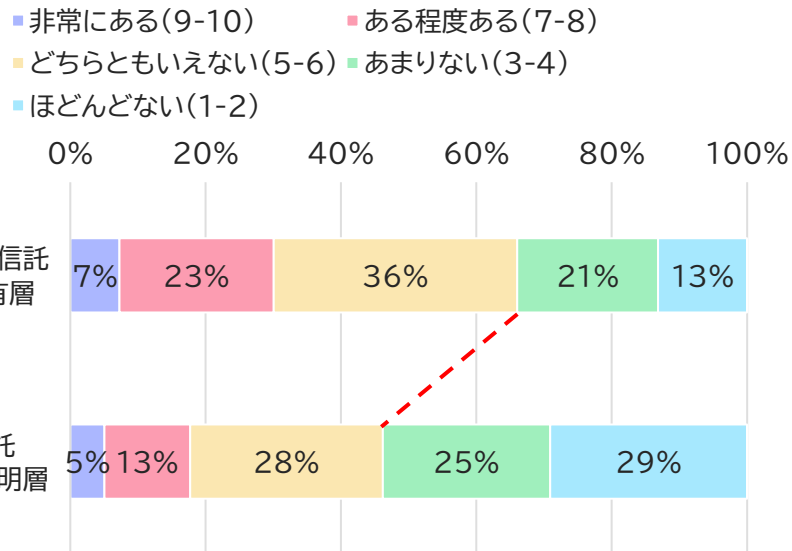
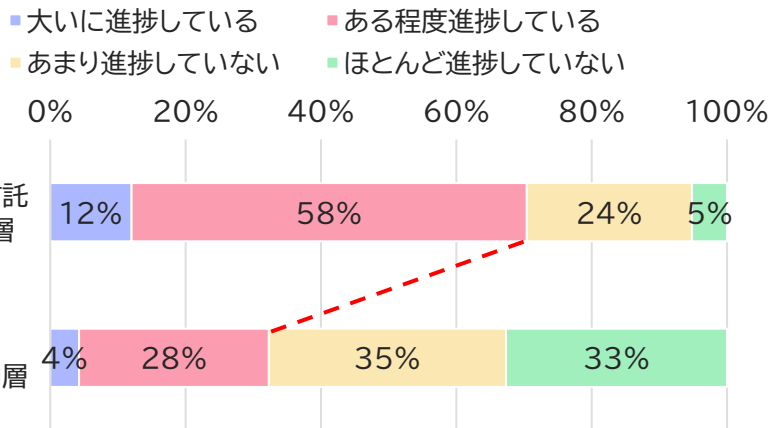
どのようなきっかけがあればDC制度や投資への関心を高めることができますか。(いくつでも)



- 企業型DCにおける投資信託非保有・不明層の方が、投資信託保有層より、老後資金準備の進捗が遅れていて、老後に対する自信も低い傾向

自分や家族が加入している企業型DCや
その他退職金制度を通じて、老後資金の準備は
どの程度進捗していますか。

老後の生活についてどの程度自信がありますか。
(10(非常にある)~1(全くない)の10段階評価)

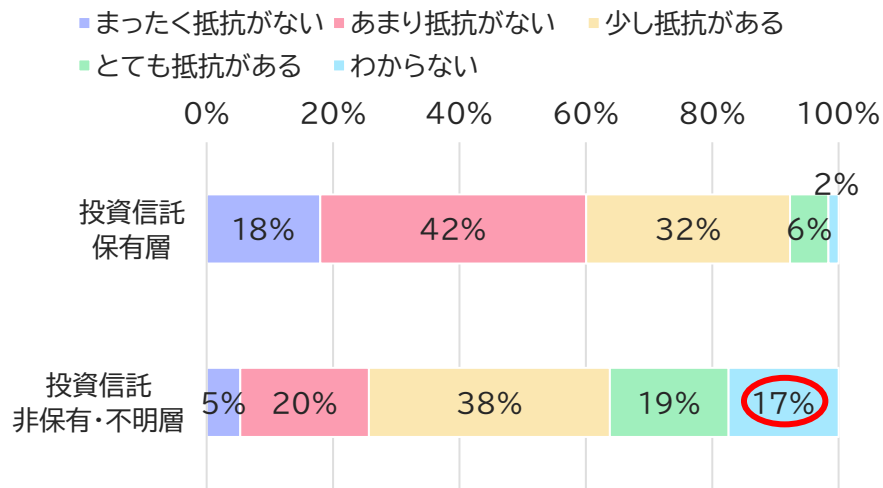


※「質問:あなたは企業型DCにおいて、投資信託(預金・保険など元本確保型商品以外の商品)に投資していますか。」に対して「はい」と答えた層を投資信託保有層、「いいえ」「わからない」と答えた層を「投資信託非保有・不明層」とする。(以降のスライドも同様)

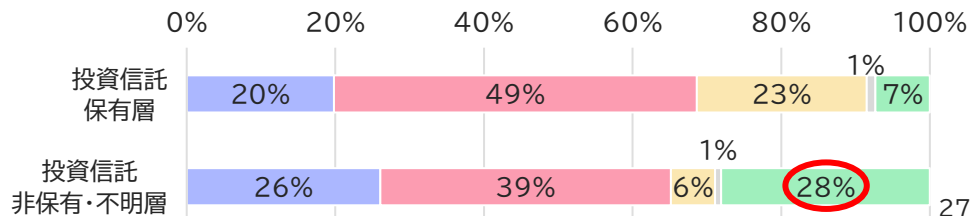
- 投資信託非保有・不明層は、投資信託保有層に比べて、投資に対する抵抗感や好む投資アプローチについて、「わからない」と答える割合が高い

企業型DCにおいて、投資リターンを高めるために投資リスクをとることについて、どの程度抵抗がありますか。企業型DCによる投資の運用成績は老後の資産に影響することを考慮してお答えください。

企業型DCによる老後資金のための投資について、あなたが好むアプローチを最もよく表している記述を選択してください。

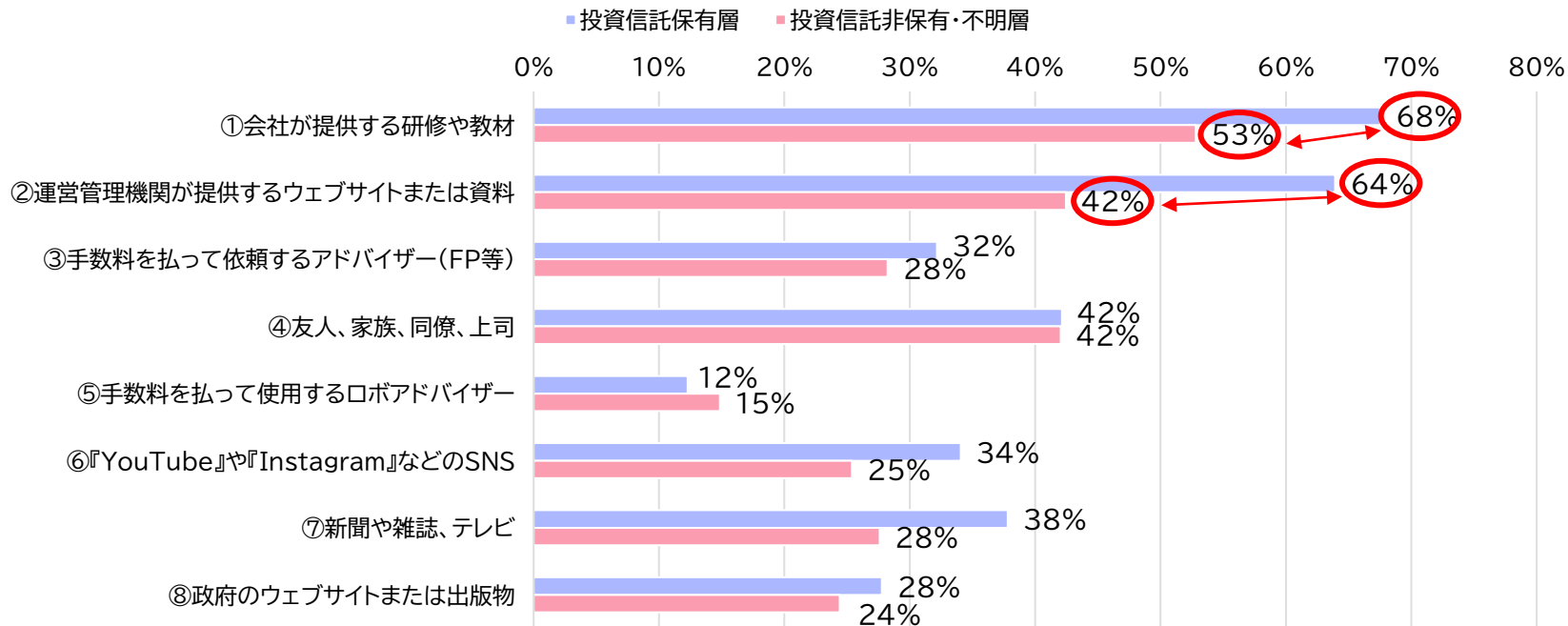


- 投資先を自分で選択せず、自動的に分散投資ポートフォリオ(デフォルト投資)に組み入れられることを希望する
- 投資方法を選択したいが、そのための教育支援が必要である
- 投資先を自分で選択し、その能力に自信がある
(※1社のみ自信を持って投資先を自分で選択したい)
- その他
- わからない



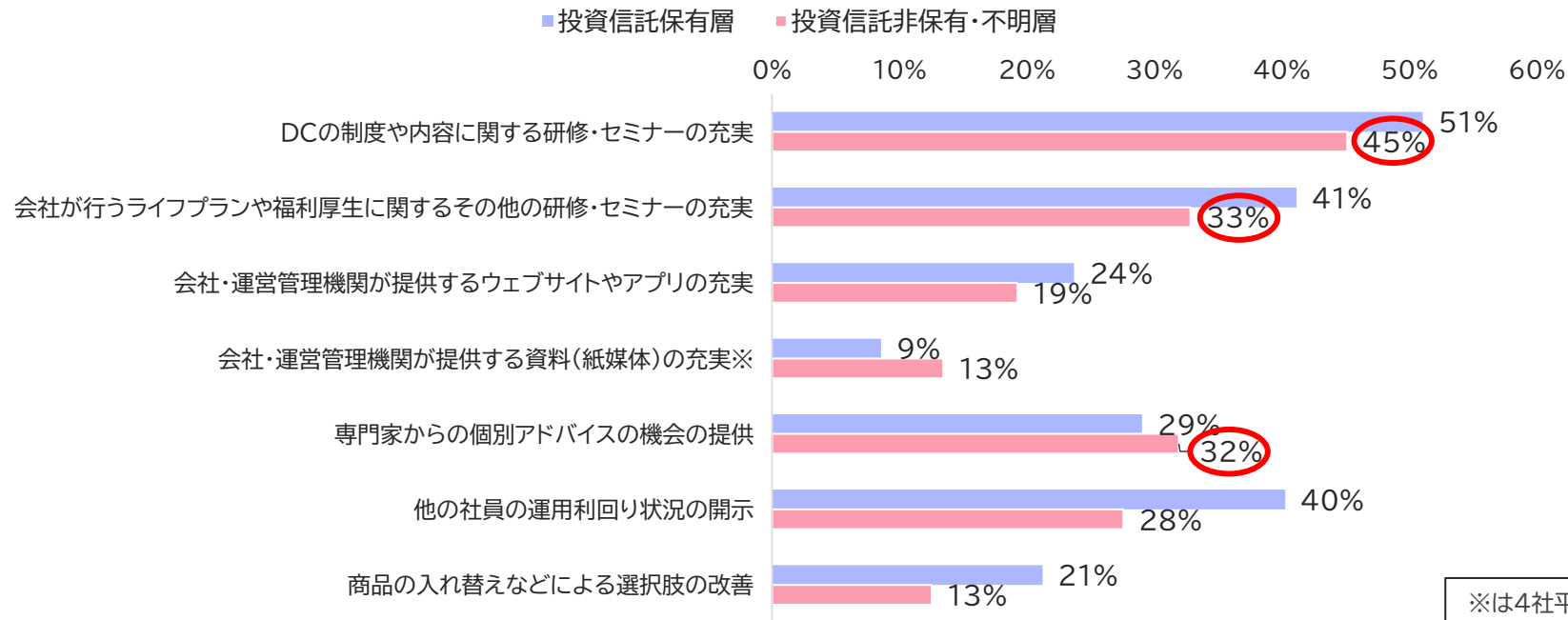
- 投資信託非保有層・不明層は会社や運営管理機関の情報を頼りにしていない傾向がある

資産形成に関するアドバイスやサポートに関して、あなたは以下の各情報源をどの程度頼りにしていますか。〈とても頼りにしている+ある程度頼りにしている割合〉



- 投資信託非保有・不明層は、職域の研修・セミナーに加えて、個別アドバイスを求める割合が高い

どのようなきっかけがあればDC制度や投資への関心を高めることができますか。(いくつでも)



【付録】質問票

No	質問	選択肢
1	あなたは企業型DCにおいて、投資信託(預金・保険など元本確保型商品以外の商品)に投資していますか？	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない
2	(Q1で「はい」を選択した場合のみ)あなたが企業型DCにおいて投資信託を選択するきっかけになったことを教えてください。(いくつでも)	<input type="checkbox"/> DCの制度や内容に関する研修・セミナー <input type="checkbox"/> 会社が行うライフプランや福利厚生に関するその他の研修・セミナー <input type="checkbox"/> 会社・運営管理機関が提供するウェブサイトやアプリ <input type="checkbox"/> 会社・運営管理機関が提供する資料(紙媒体) <input type="checkbox"/> ネットやSNS、雑誌など社外の情報 <input type="checkbox"/> 上司、同僚などの勧め <input type="checkbox"/> 専門家からの個別アドバイス <input type="checkbox"/> 商品の入れ替え <input type="checkbox"/> もともと投資をしていた(興味があった) <input type="checkbox"/> その他
3	どのようなきっかけがあればDC制度や投資への関心を高めることができますか。(いくつでも)	<input type="checkbox"/> DCの制度や内容に関する研修・セミナーの充実 <input type="checkbox"/> 会社が行うライフプランや福利厚生に関するその他の研修・セミナーの充実 <input type="checkbox"/> 会社・運営管理機関が提供するウェブサイトやアプリの充実 <input type="checkbox"/> 会社・運営管理機関が提供する資料(紙媒体)の充実 <input type="checkbox"/> 専門家からの個別アドバイスの機会の提供 <input type="checkbox"/> 他の社員の運用利回り状況の開示 <input type="checkbox"/> 商品の入れ替えなどによる選択肢の改善 <input type="checkbox"/> その他
4	【商品入れ替えのあった会社のみ】 企業型DCの運用商品の入れ替えは、あなたが投資する商品を見直すきっかけになりましたか。	<input type="checkbox"/> DCの資産運用を見直すきっかけになり、投資商品を入れ替えた <input type="checkbox"/> DCの資産運用を見直すきっかけになったが、投資商品の変更はしなかった <input type="checkbox"/> DCの資産運用を見直すきっかけになっていない <input type="checkbox"/> 運用商品の入れ替えを知らなかった(関心がなかった)

No	質問	選択肢
5	<p>資産形成に関するアドバイスやサポートに関して、あなたは以下の各情報源をどの程度頼りにしていますか。以下のそれぞれの項目についてお答えください。</p> <p>①会社が提供する研修や教材 ②運営管理機関が提供するウェブサイトまたは資料 ③手数料を払って依頼するアドバイザー（FP等） ④友人、家族、同僚、上司 ⑤手数料を払って使用するロボアドバイザー ⑥YouTubeやInstagramなどのSNS ⑦新聞や雑誌、テレビ ⑧政府のウェブサイトまたは出版物</p>	<p><各項目でそれぞれ回答></p> <p><input type="checkbox"/>とても頼りにしている <input type="checkbox"/>ある程度頼りにしている <input type="checkbox"/>あまり頼りにしていない <input type="checkbox"/>まったく頼りにしていない <input type="checkbox"/>わからない</p>
6	<p>自分や家族が加入している企業型DCやその他退職金制度を通じて、老後資金の準備ほどの程度進捗していますか？</p>	<p><input type="checkbox"/>大いに進捗している <input type="checkbox"/>ある程度進捗している <input type="checkbox"/>あまり進捗していない <input type="checkbox"/>ほとんど進捗していない</p>
7	<p>老後の生活を快適に送るために、あなたの企業型DCは十分な水準を満たしていると思いますか(会社による拠出分を含む)。</p>	<p><input type="checkbox"/>はい <input type="checkbox"/>いいえ <input type="checkbox"/>わからない</p>
8	<p>あなたの会社は福利厚生として金融経済教育に熱心に取り組んでいますか。</p>	<p><input type="checkbox"/>強くそう思う <input type="checkbox"/>そう思う <input type="checkbox"/>どちらともいえない <input type="checkbox"/>あまりそう思わない <input type="checkbox"/>まったくそう思わない</p>
9	<p>あなたのお金の管理にかかわるストレスのレベルはどの程度ですか。以下のそれぞれの項目についてお答えください。</p> <p>①日々の支出を管理して、予算をたてること ②DC制度などを通じて老後資金の準備をすること ③DCの資産配分など投資の管理を行うこと</p>	<p><各項目でそれぞれ回答></p> <p><input type="checkbox"/>高い <input type="checkbox"/>中程度 <input type="checkbox"/>低い <input type="checkbox"/>感じていない</p>

No	質問	選択肢
10	企業型DCにおいて投資リターンを高めるために投資リスクをとることについて、どの程度抵抗がありますか。 企業型DCによる投資の運用成績は老後の資産に影響することを考慮してお答えください。	<input type="checkbox"/> とても抵抗がある <input type="checkbox"/> 少し抵抗がある <input type="checkbox"/> あまり抵抗がない <input type="checkbox"/> まったく抵抗がない <input type="checkbox"/> わからない
11	企業型DCによる老後資金のための投資について、あなたが好むアプローチを最もよく表している記述を選択してください。	<input type="checkbox"/> 投資先を自分で選択せず、自動的に分散投資ポートフォリオ(デフォルト投資)に組み入れられることを希望する <input type="checkbox"/> 投資方法を選択したいが、そのための教育支援が必要である <input type="checkbox"/> 投資先を自分で選択し、その能力に自信がある <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> わからない
12	あなたは老後の生活についてどの程度期待していますか(楽しみにしていますか)。	10(非常にある)～1(全くない)の10段階評価
13	あなたは老後の生活についてどの程度自信がありますか。	10(非常にある)～1(全くない)の10段階評価
14	あなたの年代を教えてください。	<input type="checkbox"/> 20歳代まで <input type="checkbox"/> 30歳代 <input type="checkbox"/> 40歳代 <input type="checkbox"/> 50歳代 <input type="checkbox"/> 60歳代
15	あなたの性別を教えてください。	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 回答しない

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構及び保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額については元本保証及び利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【投資信託に係るリスクと費用について】

- 投資信託のリスクとお客さまにご負担いただく費用については、以下のQRコード、またはURLにアクセスしてご確認ください。

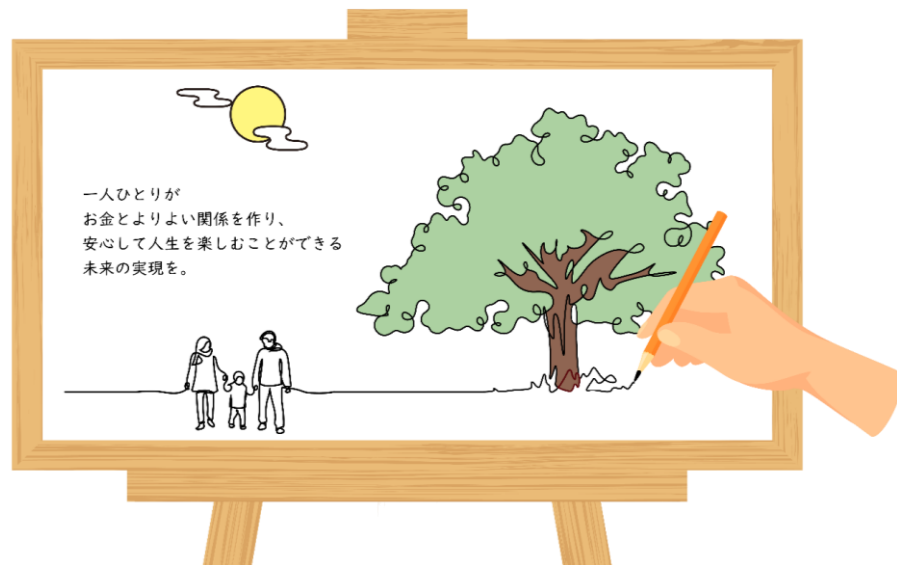
QRコード:



URL : <https://www.am-one.co.jp/static/risk.html>

コールセンター: 0120-104-694 (受付時間は営業日の午前9時～午後5時です)

アセットマネジメントOne 未来をはぐくむ研究所



未来をはぐくむ研究所のホームページはこちら↑